

## 参考 新設科目シラバス(シラバスは、変更される場合があります。)

### ■地域再生学特論 2単位 (後期開講:平成 18 年度後期より開始)

#### <授業のねらいと内容>

琵琶湖を中心に継承されてきた滋賀県固有の歴史・文化・自然を基盤として、生きた地域再生学を学ぶために、「地元学」の観点から「近江八幡」「彦根」「長浜」「高島」「大津」を教材化し、講義する。

「地元学」では、それぞれの街や地域で、行政或いは専門家として地域をとりまとめたリーダーによる実践的講義を通して、近江環人地域再生学座が育成する「近江環人=コミュニティ・アーキテクト」の職能と役割について学ぶ。地域再生学が目指すものは、地域の特色を活かし地域の将来ビジョンにもとづく地域再生手法の修得及び地域再生に係る事業の企画、調整、改善のプロセスをオーガナイズし、行政、企業、市民、専門家等をコーディネートする総合能力の開発である。

#### <授業計画>

- 第 1 回 特別講義:地元学による地域再生
- 第 2 回 総論:国内外事例にみる地域再生手法と近江環人の役割
- 第 3 回 近江八幡学 1:堀の再生からの活性化パワー
- 第 4 回 近江八幡学 2:生き甲斐のまちづくり
- 第 5 回 近江八幡学 3:文化的景観のまちづくり
- 第 6 回 彦根学 1:城下町保存とまちづくり
- 第 7 回 彦根学 2:限界集落再生の模索
- 第 8 回 長浜学 1:黒壁のまちづくり-構想と問題克服
- 第 9 回 長浜学 2:黒壁のまちづくり-課題と将来
- 第 10 回 高島学 1:関西のふるさとづくり-環の郷再生計画
- 第 11 回 高島学 2:農山村再生と森と川と教育の再生
- 第 12 回 大津学 1:湖都のまちづくり
- 第 13 回 大津学 2:協働のまちへ
- 第 14 回 総括:滋賀県地元学の確立に向けて

<成績評価> 出席状況と参加態度、および、レポート提出によって評価する。

<テキスト、指定図書、参考書> 各回の講義内容に応じて、行政資料、事業関連資料等を配布する。又、地域再生を学ぶ上で国内外事例に関する参考図書等を紹介する。

### ■コミュニティ・マネジメント特論 2単位(前期開講:平成 19 年度前期より開始)

#### <授業のねらいと内容>

まちや地域のダイナミックスを作り上げている「人的、文化的、自然的」リソースに着目し、それらをうまく活用する社会的、制度的、経済的な仕組みを理解し活用する方法について学ぶ。

授業の前半では、コミュニティのダイナミックスを形成しているリソース、イニシャティブおよびそれらをつなぎ合わせる制度や仕組みについて学ぶ。

授業の後半では、生き生きとしたコミュニティ・マネジメントの方法について、人材育成、地域環境、社会関係、コミュニティ・ビジネスの視点から学ぶとともに、実践的なコミュニティ・マネジメントの方法を具体的な事例を通じて学ぶ。

#### <授業計画>

- 第 1 回 コミュニティ・マネジメント総論
- 第 2 回 コミュニティのリソース
- 第 3 回 コミュニティにおける私、共、公の領域

- 第4回 コミュニティをめぐる計画制度
- 第5回 地域経済の仕組みとコミュニティ
- 第6回 地方金融の仕組みとコミュニティ
- 第7回 地方自治体とコミュニティ
- 第8回 人を育てるコミュニティ・マネジメント
- 第9回 環境質をたかめるコミュニティ・マネジメント
- 第10回 社会関係を強めるコミュニティ・マネジメント
- 第11回 人々の役割を創出するコミュニティ・ビジネス
- 第12回 コミュニティ・マネジメントの事例 (1)
- 第13回 コミュニティ・マネジメントの事例 (2)
- 第14回 まとめ

< 成績評価 >

出席状況、およびレポート提出によって評価する。

< テキスト、指定図書、参考書 >

各回の講義内容に応じて、行政資料、事業関連資料等を配布する。又、コミュニティ・マネジメントを学ぶ上で国内外事例に関する参考図書等を紹介する。

**■エコ・テクノロジー特論 2単位 (後期開講:平成18年度後期より開始)**

< 授業のねらいと内容 >

サステナブル・デザインに必要な、省資源、省エネルギー、自然エネルギー、パッシブソーラー、水質浄化などの環境技術について体系的に学ぶ。主に、以下の3つから構成する。

(1)自然エネルギーによる創エネルギー

・地域にある太陽光、太陽熱、風力、バイオマス(畜産廃棄物、林業廃棄物、家庭廃棄物、下水汚泥)、小水力などの自然エネルギーの地域での積極的な利用を進めるための技術と地域性に関する講義。

(2)居住設備とパッシブソーラー

・住宅における温暖化対策技術の導入・普及の推進を図るために、パッシブソーラーなど地域の特性を踏まえた様々な技術に関する講義。

・共有地、遊休地、家庭などでの緑化、緑豊かなまちづくりを進めるための仕組み。

(3)地球環境モデル地域創出のための環境技術

・居住空間、複合施設、都市空間、農業・産業社会の各環境技術に対する地域の取り組みや、地域分散型小規模発電(マイクログリッド)と地域づくりについて講義。

< 授業計画 >

- 第1回 イントロダクション:循環型社会の創造と環境技術
- 第2回 地域再生環境技術の基礎-1:太陽光・熱
- 第3回 地域再生環境技術の基礎-2:風力
- 第4回 地域再生環境技術の基礎-3:小水力
- 第5回 地域再生環境技術の基礎-4:バイオマス
- 第6回 地域再生環境技術の基礎-5:建物
- 第7回 地域再生環境技術の基礎-6:里山・生き物
- 第8回 事例-1:居住空間
- 第9回 事例-2:複合施設
- 第10回 事例-3:都市空間

- 第 11 回 事例-4: 農業・産業社会
- 第 12 回 事例-5: マイクログリッドと地域づくり
- 第 13 回 総括: サステイナブル社会は可能か
- 第 14 回 特別講義: 環の国と地域の取り組み

< 成績評価 >

出席状況、およびレポート提出によって評価する。

< テキスト、指定図書、参考書 >

講義内容に応じて、適宜資料を提示、配布する。

**■地域診断法特論 2単位 (前期開講: 平成 19 年度前期より開始)**

< 授業のねらいと内容 >

地域再生への取り組みは、初めに地域の現状を正確に認識し、地域をそれぞれの個性に応じた仕方では評価するところからスタートする。

この授業では、地域における人間、文化、環境、およびソフト、ハードの課題を、さまざまな側面にわたる調査データおよび既存データを駆使して読み解く技術を示すとともに、地域の現状を地域に即して分析、評価するための手法を示す。また、地域課題相互の関連性や対処法について、具体的な事例を踏まえて考える。単に対症療法的な技術ではなく、諸要素の状況を統合して、地域の問題を総合的に把握し、理解する能力を習得することが目標である。テーマによっては、フィールドワークを含む実技指導も行なう。

< 授業計画 >

- 第1回 インTRODクシヨN: 地域の成り立ちと構成要素
- 第2回 地域診断のツール 1: 地図・GIS・リモートセンシング
- 第3回 地域診断のツール 2: による自然生態・土地利用
- 第4回 地域診断のツール 3: の把握
- 第5回 自然環境の診断 1: 水質測定、水質分析①
- 第6回 自然環境の診断 2: 水質測定、水質分析②
- 第7回 自然環境の診断 3: 景観生態学とその応用①
- 第8回 自然環境の診断 4: 景観生態学とその応用②
- 第9回 地域文化の診断 1: 自治組織の機能①
- 第10回 地域文化の診断 2: 自治組織の機能②
- 第11回 地域文化の診断 3: 文化景観
- 第12回 地域経済の診断 1: 地域/住民の経済活動・産業動態
- 第13回 地域経済の診断 2: 観光・伝統産業・地場産業
- 第14回 地域特性の把握と地域の個性に応じた総合的評価手法

< 成績評価 >

試験および授業で得た知見を活用した具体的な地域の総合的診断・評価のレポート作成。

< テキスト、指定図書、参考書 >

各週の講義内容に応じて、ビジュアル資料、紙資料を提示、配布する。参考図書等は、講義中に適宜紹介する。

**■コミュニティ・プロジェクト実習 I 2単位 (平成 18 年度後期より開始)**

< 授業のねらいと内容 >

この演習では、教員の指導のもとに構成されるプロジェクトチームの一員として、滋賀県内の特定地域における実際の課題に取り組み、地域と連携してその解決策を探り、地域に対して提案を行い実践する。解決策を探る過程では、とくに、関係者による合意形成と、地域文化の尊重を重視する。実習課題としては、古民家再生、廃村の再生活用、河辺環境の再生、伝統技術による新商品開発などを想定し、学生の要望等を考慮し設定する。

本演習をとおして、地域と連携しプロジェクトを遂行するための技術や総合的な能力を養成することを目的として、以下に重きを置いて実習指導を行う。

- ・地域の課題や可能性を具体的に掘り起こす地域診断のための調査手法や技術。
- ・デザインシャレットやワークショップなど集団で創造的なアウトプットを得るための手法や技術。
- ・既存・新規情報の活用、多様な選択肢の設定等を経て、合意形成を図る総合的なコーディネート力。
- ・法規、プロセス、技術等を総合的に勘案し、最善の解決方法を見出すマネジメント力やデザイン力。

#### < 授業計画 >

第 1 回目にオリエンテーションを行い、受講生の希望に応じて、課題プロジェクトおよび指導教員を決定し、目標設定を行う。その後の実施方法は、プロジェクトの内容に応じて様々であるが、原則として週 1 回、指導教員と会合を行い、進捗状況の確認や問題の共有などを行う。期末には、プロジェクトの成果を発表する講評会を行うとともに、プロジェクト報告書やポートフォリオを作成し成果を公開する。なお、プロジェクトによっては、地域の事情に応じて実施時期を調整することがある。

、本学の関わる様々な地域プロジェクトの中から本演習の課題を選定し、当該プロジェクトに関わる本学教員および学外専門家の指導のもとに実践的演習を進める。さらに、受講生自らが課題プロジェクトを設定することも可とする。その場合は、課題の専門性を考慮して指導教員を選定する。

第 1 回目：オリエンテーション(課題プロジェクト、指導教員の決定)

第 2 回目：現地調査(フィールド調査による現況把握)

第 3-5 回目：地域ニーズの把握(行政、企業、市民団体等へのヒアリング)

第 6 回目：計画方針の作成(前提条件、コンセプト、提案概要等)

第 7 回目：中間報告会(プレゼンテーション、全員討議等)

第 8-11 回目：プロジェクト案の作成(計画要素、整備水準、実現方策、組織体制等)

第 12-13 回目：プロジェクト案の精査(行政、企業、市民団体等の評価)

第 14 回目：最終報告会

#### < 成績評価 >

当初の目標の達成度に加えて、プロジェクトに対する取り組み姿勢や、チームおよび成果に対する貢献度もみて、総合的に評価する。

#### < テキスト、指定図書、参考書 >

講義内容に応じて、適宜資料を提示、配布する。

#### **(参考)コミュニティ・プロジェクト実習 I の課題例**

【プロジェクトテーマ】：小大連携による地域環境教育の実践

【プロジェクト名】：「リバーウォッチング in 安曇川」

【概要】：滋賀県高島市立安曇小学校において、子どもたちが「地域に学ぶ」プログラムのサポートを実践する。地域を流れる安曇川を軸に、河口から源流までの調査をとおし、自然環境や地域の文化に触れ、また地域の人々との交流体験をもとに地域文化の継承等について、歴史、文化、暮らしを踏まえて提言する。

【プロジェクトテーマ】：古民家再生と地域整備の循環システム構築

【プロジェクト名】：「とよさと快蔵プロジェクト」

【概要】:近江商人の民家や蔵などの地域資源を、行政や地域住民と協働で改修し、活用する手法について、循環型地域社会を構築する視点から実践的に学ぶ。

【プロジェクトテーマ】:地域ガバの人材発掘と人材育成

【プロジェクト名】:「中山道コンシェルジュ育成プロジェクト」

【概要】:鳥居本、高宮、豊郷、愛知川の中山道宿場町を中心に、地域の魅力をコーディネートし伝える人材を、地域で発掘し、育成するためのプログラムの提案及び実践活動を課題とする。

【プロジェクトテーマ】:資源循環型社会形成のためのエネルギー事業推進

【プロジェクト名】:「菜の花エネルギーネットワーク」

【概要】:地域の資源循環型社会形成のためのエネルギー環境教育を、菜の花バイオディーゼル燃料に特化して実施する。具体的には、①家庭から排出される廃食用油の有効利用への理解、②休耕地、裏作期を利用した菜の花の栽培、菜種油の搾取、③家庭での菜種油の利用、廃食用油の回収、④廃食用油の燃料化などの課題に対して、行政、企業、市民団体の協力を得て、実践的に学ぶ。

【プロジェクトテーマ】:循環型地域社会実験区の計画設計

【プロジェクト名】:小舟木エコ村プロジェクト

【概要】:近江八幡市内の小舟木地区で、企業、NPO法人が協働して取り組む循環型地域社会実験区の建設プロセスを実習教材化し、持続可能な地域社会の計画、設計、管理、運営に係るコーディネート的手法を学ぶ。

## ■コミュニティ・プロジェクト実習Ⅱ 2単位（平成19年度前期より開始）

＜授業のねらいと内容＞

エコ・テクノロジー特論において学んだ内容を実践的に修得することをねらいとする。演習では、主にサステナブル・デザインに必要な自然エネルギー利用技術、パッシブソーラーを取り入れた木造建築技法などについて課題を抽出し、その解決能力を養う。

(1)自然エネルギー利用技術

・地域にある太陽光発電、風力発電、バイオ燃料発電、小水力発電、バイオ水素燃料電池発電、およびこれらの複合技術について修得する。

(2)居住設備とパッシブソーラー

・住宅における温暖化対策技術の導入・普及の推進を図るために、パッシブソーラーなど地域の特性を踏まえた様々な技術の中から木造技術について修得する。

＜コアスタッフ＞山根浩二、松岡拓公雄

＜授業計画＞

第1回 風力発電と太陽光発電の特性の実習

気象条件と発電量のコンピューターシミュレーションによる実習

第2回 系統連系の実習、負荷と逆潮流実験

発電量の表示と気象条件の表示

第3回 コンピュータ上での自動計測・データ分析

自然エネルギー実習(バイオマス発電)

第4回 バイオ燃料発電機の特性の実習

バイオ燃料の原料と燃料製造実習

第5回 バイオ燃料発電機の特性の実習

発電特性の自動計測・データ分析

- 第 6 回 報告会 プレゼンテーション(自然エネルギー)
- 第 7 回 木工技術の実習(県産材の活用研究)1
- 第 8 回 木工技術の実習(県産材の活用研究)2
- 第 9 回 木造構築物、伝統工法の現場視察と検証
- 第 10 回 木造建築の耐震性の実験検証
- 第 11 回 木造エコハウスの設計1
- 第 12 回 木造エコハウスの設計2
- 第 13 回 木造エコハウスの設計3
- 第 14 回 最終報告会 プレゼンテーション(木造エコハウス)

< 成績評価 >

出席状況と参加態度、レポート提出によって総合的に評価する。

< テキスト、指定図書、参考書 >

講義内容に応じて、適宜資料を提示、配布する。